（２３）アスパラガス

病害虫	防除法	参考事項
疫病	（薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 ダコニール１０００ フォリオゴールド プロポーズ顆粒水和剤	
茎枯病	（耕種的・物理的防除） 1　地上部が黄化した後、残茎はできるだけ低く刈り取り、ほ場から持ち出す。 （薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 ＩＣボルドー６６Ｄ Ｚボルドー アフェットフロアブル アミスター２０フロアブル ジマンダイセン水和剤 ダコニール１０００ トップジンM水和剤 フロンサイドＳＣ ベルクート水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤	
白絹病	（耕種的・物理的防除） 1　植付け前に土壌消毒をする（共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照）。	
立枯病	（耕種的・物理的防除） 1　株の草勢が衰えないように肥培管理を行う。 2　排水を良くする。 3　定植の時は、無病苗を用いる。 （薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　植付け前に土壌消毒をする（共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照）。 薬剤名 クロールピクリン ドジョウピクリン/クロピク８０/ドロクロール クロピクフロー クロルピクリン錠剤 2　トップジンM水和剤を散布、又はトリフミン水和剤をかん注する。	

<table>
<tr><th>病害虫</th><th>防除法</th><th>参考事項</th></tr>
<tr>
<td>斑点病</td>
<td>（耕種的・物理的防除）
1　前年度の茎葉は片付ける。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　下記薬剤のいずれかを散布する。
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>ＩＣボルドー６６Ｄ</td></tr>
<tr><td>Ｚボルドー</td></tr>
<tr><td>アフェットフロアブル</td></tr>
<tr><td>アミスター２０フロアブル</td></tr>
<tr><td>ジマンダイセン水和剤</td></tr>
<tr><td>スコア顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>ダコニール１０００</td></tr>
<tr><td>ファンタジスタ顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>フロンサイドＳＣ</td></tr>
<tr><td>ベルクート水和剤</td></tr>
</table>
</td>
<td>○　過繁茂によるムレを防ぐようにする。</td>
</tr>
<tr>
<td>アブラムシ類</td>
<td>（薬剤防除）　農薬登録情報
1　生物農薬
<table>
<tr><th>薬剤名（天敵名）</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>アフィパール
（コレマンアブラバチ）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>コレトップ
（コレマンアブラバチ）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>チャバラ
（チャバラアブラコバチ）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>テントップ
（ナミテントウ）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>カメノコＳ
（ヒメカメノコテントウ）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>ゴッツＡ
（ペキロマイセス テヌイペス）</td><td>施設栽培</td></tr>
<tr><td>プリファード水和剤
（ペキロマイセス フモソロセウス）</td><td>ワタアブラムシでの登録</td></tr>
</table>
2　気門封鎖剤
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>エコピタ液剤</td></tr>
<tr><td>オレート液剤</td></tr>
<tr><td>サフオイル乳剤</td></tr>
<tr><td>サンクリスタル乳剤</td></tr>
<tr><td>粘着くん液剤</td></tr>
<tr><td>フーモン</td></tr>
<tr><td>ムシラップ</td></tr>
</table>
3　下記薬剤のいずれかを散布する。
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>アーデント水和剤</td></tr>
<tr><td>ウララＤＦ</td></tr>
<tr><td>ハチハチフロアブル</td></tr>
<tr><td>モスピラン顆粒水溶剤</td></tr>
</table>
</td>
<td>○　天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項
1　天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
2　アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。</td>
</tr>
</table>

病害虫	防除法	参考事項
ネキリムシ類	・共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照する。 （耕種的・物理的防除） 1　被害株周辺の幼虫を捕殺する。 （薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　下記薬剤のいずれかを処理する。 薬剤名 クロールピクリン ドジョウピクリン/クロピク８０/ドロクロール 2　下記薬剤を散布する。 薬剤名 ガードベイトA	

<table>
<tr><th>病害虫</th><th>防除法</th><th>参考事項</th></tr>
<tr><td>ハスモンヨトウ</td><td>・共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項を参照する。

（予防に関する措置）
1　施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯（黄色灯）の夜間点灯を行う。
2　ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
3　交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。

（判断、防除に関する措置）
1　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
2　卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
3　農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
4　BT 剤（下表）を活用した防除を行う。
5　施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
6　作物残さを適切に処分する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　交信かく乱剤
<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>ヨトウコンーH</td></tr><tr><td>コンフューザーV</td></tr></table>
2　BT 剤
<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>エコマスターＢＴ</td></tr><tr><td>クオークフロアブル</td></tr><tr><td>サブリナフロアブル</td></tr><tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td></tr><tr><td>フローバックＤＦ</td></tr></table>
3　若齢幼虫のうちに、下記薬剤散布する。
<table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>アファーム乳剤</td></tr><tr><td>カスケード乳剤</td></tr><tr><td>グレーシア乳剤</td></tr><tr><td>コテツフロアブル</td></tr><tr><td>フェニックス顆粒水和剤</td></tr><tr><td>プレオフロアブル</td></tr><tr><td>プレバソンフロアブル５</td></tr></table></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>病害虫</th><th>防除法</th><th>参考事項</th></tr>
<tr><td>ヨトウムシ</td><td>
（予防に関する措置）
1　ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
2　施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯（黄色灯）の夜間点灯を行う。
3　種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。
4　施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

（判断、防除に関する措置）
1　卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
2　BT 剤（下表）を活用した防除を行う。
3　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
4　結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。
5　物残さを適切に処分する。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　BT 剤
<table>
<tr><th>薬剤名</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>エスマルクＤＦ</td><td></td></tr>
<tr><td>エコマスターＢＴ</td><td></td></tr>
<tr><td>クオークフロアブル</td><td></td></tr>
<tr><td>サブリナフロアブル</td><td></td></tr>
<tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td><td></td></tr>
<tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td><td>シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウでの登録</td></tr>
<tr><td>トアロー水和剤ＣＴ</td><td></td></tr>
<tr><td>フローバックＤＦ</td><td></td></tr>
</table>
2　発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>アファーム乳剤</td></tr>
<tr><td>コテツフロアブル</td></tr>
<tr><td>スカウトフロアブル</td></tr>
<tr><td>フェニックス顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>プレオフロアブル</td></tr>
</table>
</td><td></td></tr>
</table>

病害虫	防除法	参考事項
オオタバコガ	・共通防除の章のオオタバコガの防除の項を参照する。 （予防に関する措置） 1　ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 2　施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。 3　本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。 4　交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。 5　施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 （判断、防除に関する措置） 1　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。 2　寄生果を見つけ次第、除去する。 3　食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。 4　新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾は、ほ場外に持ち出し処分する。 5　BT 剤（下表）を活用した防除を行う。 6　作物残さを適切に処分する。 7　蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。 （薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　交信かく乱剤 薬剤名 コナガコン コナガコンープラス コンフューザーV 2　BT 剤 薬剤名 エスマルクＤＦ エコマスターＢＴ クオークフロアブル サブリナフロアブル チューンアップ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 トアローフロアブルＣＴ フローバックＤＦ 3　発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。なお、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうので、早期発見、早期防除に重点を置く。 薬剤名 アファーム乳剤 カスケード乳剤 コテツフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレオフロアブル	

<table>
<tr><th>病害虫</th><th>防除法</th><th>参考事項</th></tr>
<tr>
<td>アザミウマ類</td>
<td>（薬剤防除）　農薬登録情報
1　生物農薬
<table>
<tr><th>薬剤名（天敵名）</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>スワルスキー
（スワルスキーカブリダニ）</td><td></td></tr>
<tr><td>スワルスキープラス
（スワルスキーカブリダニ）</td><td></td></tr>
<tr><td>ククメリス
（ククメリスカブリダニ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>メリトップ
（ククメリスカブリダニ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>リモニカ
（リモニカスカブリダニ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>オリスターＡ
（タイリクヒメハナカメムシ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>トスパック
（タイリクヒメハナカメムシ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>リクトップ
（タイリクヒメハナカメムシ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>タイリク
（タイリクヒメハナカメムシ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>アリガタ
（アリガタシマアザミウマ）</td><td>施設のみ</td></tr>
<tr><td>ボタニガードＥＳ
（ボーベリア・バシアーナ）</td><td></td></tr>
<tr><td>ボタニガード水和剤
（ボーベリア・バシアーナ）</td><td>施設のみ</td></tr>
</table>
2　自然くん煙
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>モスピランジェット</td></tr>
</table>
3　発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>アドマイヤー顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>カスケード乳剤</td></tr>
<tr><td>グレーシア乳剤</td></tr>
<tr><td>スピノエース顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>リーフガード顆粒水和剤</td></tr>
<tr><td>ディアナＳＣ</td></tr>
<tr><td>ファインセーブフロアブル</td></tr>
<tr><td>モスピラン顆粒水溶剤</td></tr>
</table>
【ネギアザミウマ】
<table>
<tr><th>薬剤名</th></tr>
<tr><td>アクタラ顆粒水溶剤</td></tr>
<tr><td>ダントツ水溶剤</td></tr>
<tr><td>ハチハチフロアブル</td></tr>
</table>
</td>
<td>○　天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項
1　天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
2　アザミウマ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

○　くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項を参照する。</td>
</tr>
</table>

病害虫	防除法	参考事項
ナメクジ類	（耕種的・物理的防除） 1　野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。 2　ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。 3　農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。 4　畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。 5　畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。 （薬剤防除）　**農薬登録情報** 1　下記薬剤を処理する。 **薬剤名** ランネート４５ＤＦ	○　ランネートは吸入毒性が強いので必ずマスクを着用する。施設内では絶対に使用しない。